

概要版

第2期知多市国民健康保険データヘルス計画

平成30年度～平成35年度

基本目標1
健康寿命の延伸

生活習慣病の発症予防や重症化予防によって、健康寿命の延伸を目指します。

基本目標2
医療費等の適正化

健康診査を受診する習慣を身に付け、生活習慣を改善することによって、医療費等の長期的な抑制を図り、その適正化を目指します。

基本目標3
国保加入者の健康力の向上

国保加入者が、健康づくりに主体的に取り組むことの重要性を理解し、実践する力（健康力）を高め、健康づくりを推進できる環境整備に努めます。

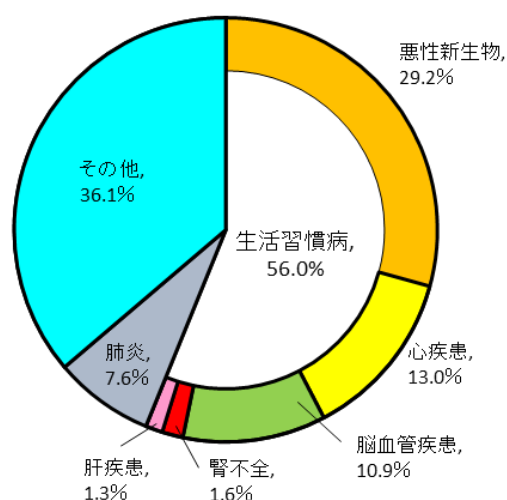
「知多市国民健康保険データヘルス計画」は、健康・医療情報を活用して効果的かつ効率的な保健事業を実施することで、国保加入者の健康を増進し、医療費等の適正化を目指します。

知多市の現状と課題

○知多市の現状

・死因別死亡割合（平成23年～27年平均）

知多市

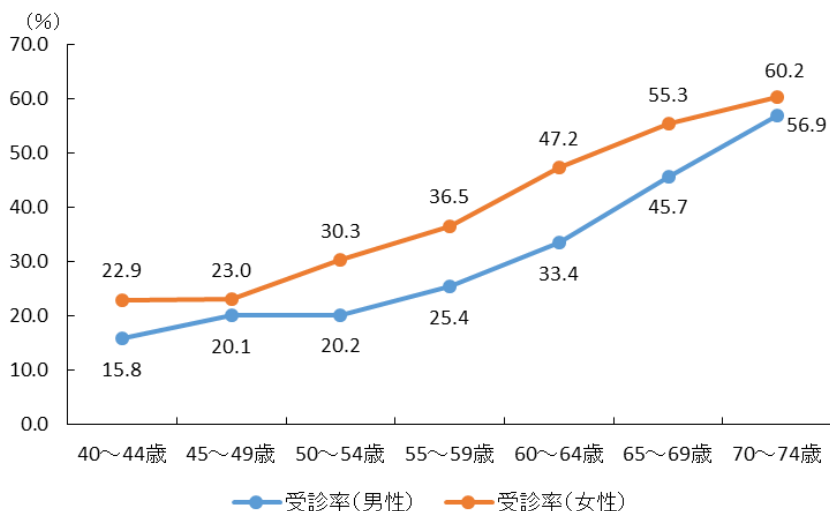


死因別死亡割合は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、腎不全、肝疾患といった生活習慣病によるものが、全体のおよそ6割となっています。

生活習慣病とは、「食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に關与する疾患群」のことです。

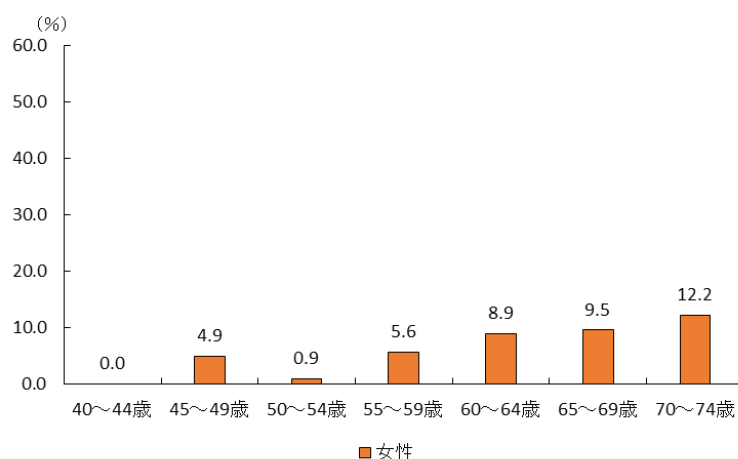
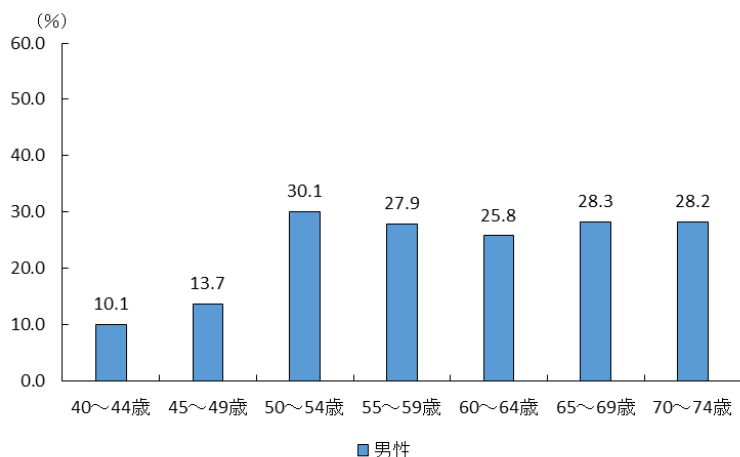
急速に進む高齢化を背景として、その予防は、健康を守るために大変重要となっています。

・年代別特定健診受診状況（平成 28 年度）



特定健診の受診率は、女性より男性が低く、高年齢者より若年者が低くなっています。

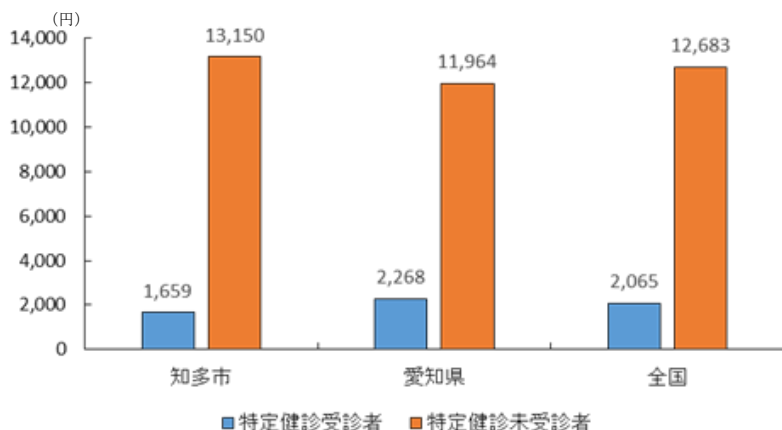
・特定健診受診者のメタボ該当者の割合（平成 28 年度）



メタボリックシンドローム該当者の割合は、各年代とも男性の割合が女性より高く、年齢が上がるとともに増加しています。男性は 50 歳から 54 歳で急激に該当者の割合が増加しています。

○データ分析に基づく健康課題

・特定健診受診者・未受診者における生活習慣病等一人当たり医療費（平成 28 年度）



一人当たりの医療費は、特定健診受診者より、未受診者が高額となっています。県や国と比べても、未受診者の一人当たり医療費は高くなっています。

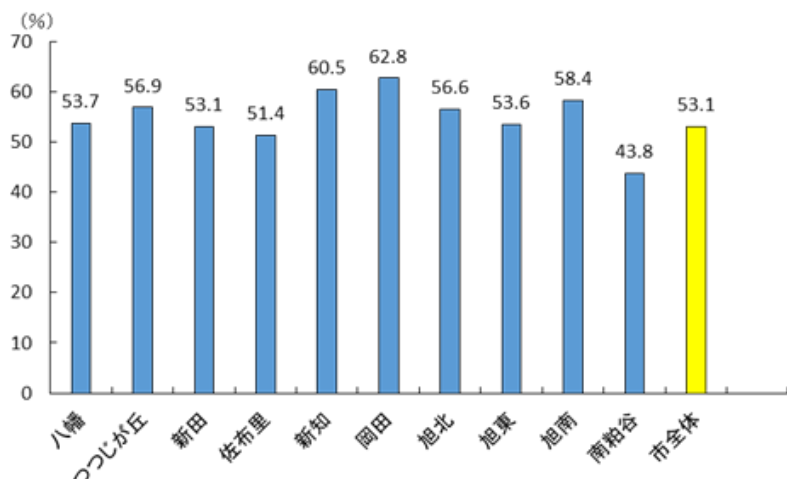
平成 28 年度の知多市国民健康保険における医療費全体額は約 58 億 210 万円です。このうち生活習慣病に関する医療費は約 20 億 6,500 万円で、医療費全体の 35.6%を占めています。

・糖尿病対象者の状況

特定健診受診者（平成 28 年度）のうち、※¹HbA1c が受診勧奨レベル（6.5 以上）であるが、治療を受けていない人は 285 人いました。

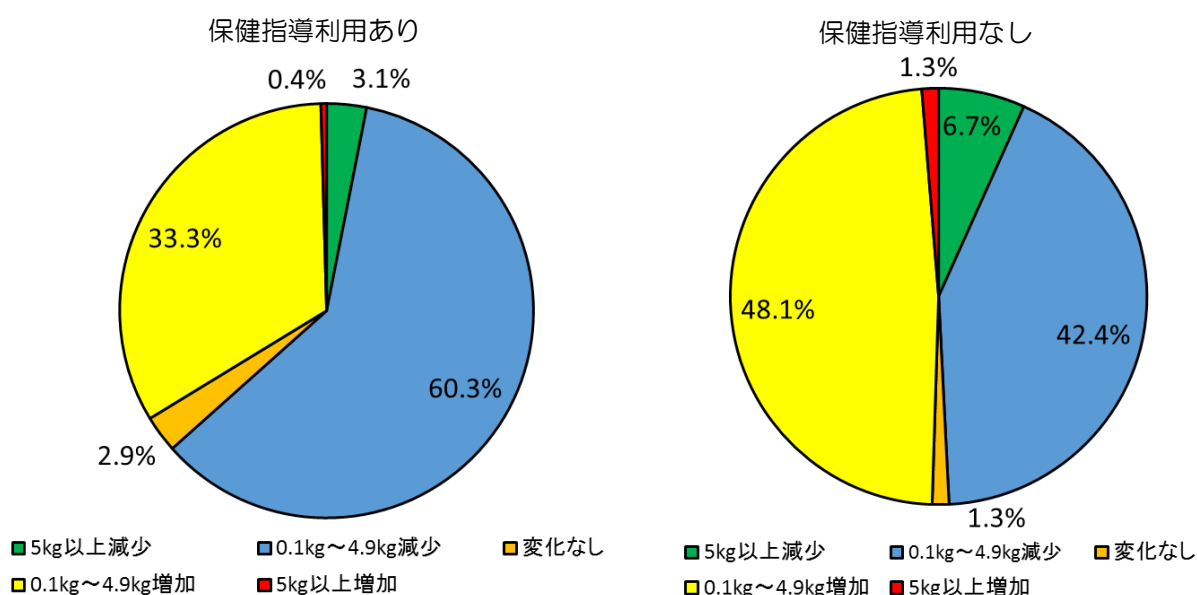
※1 平均的な血糖の状態がわかる指標

・地域別 1 回 30 分以上の運動を週 2 日以上していない人の割合（平成 28 年度）



特定健診受診者の問診結果を地域別に分析したところ、1 回 30 分以上、週 2 回以上の運動をしていない人の割合は、南粕谷地区が最も低く、岡田地区が最も高くなっています。

・特定保健指導の利用有無別にみる体重変化（平成 28 年度）

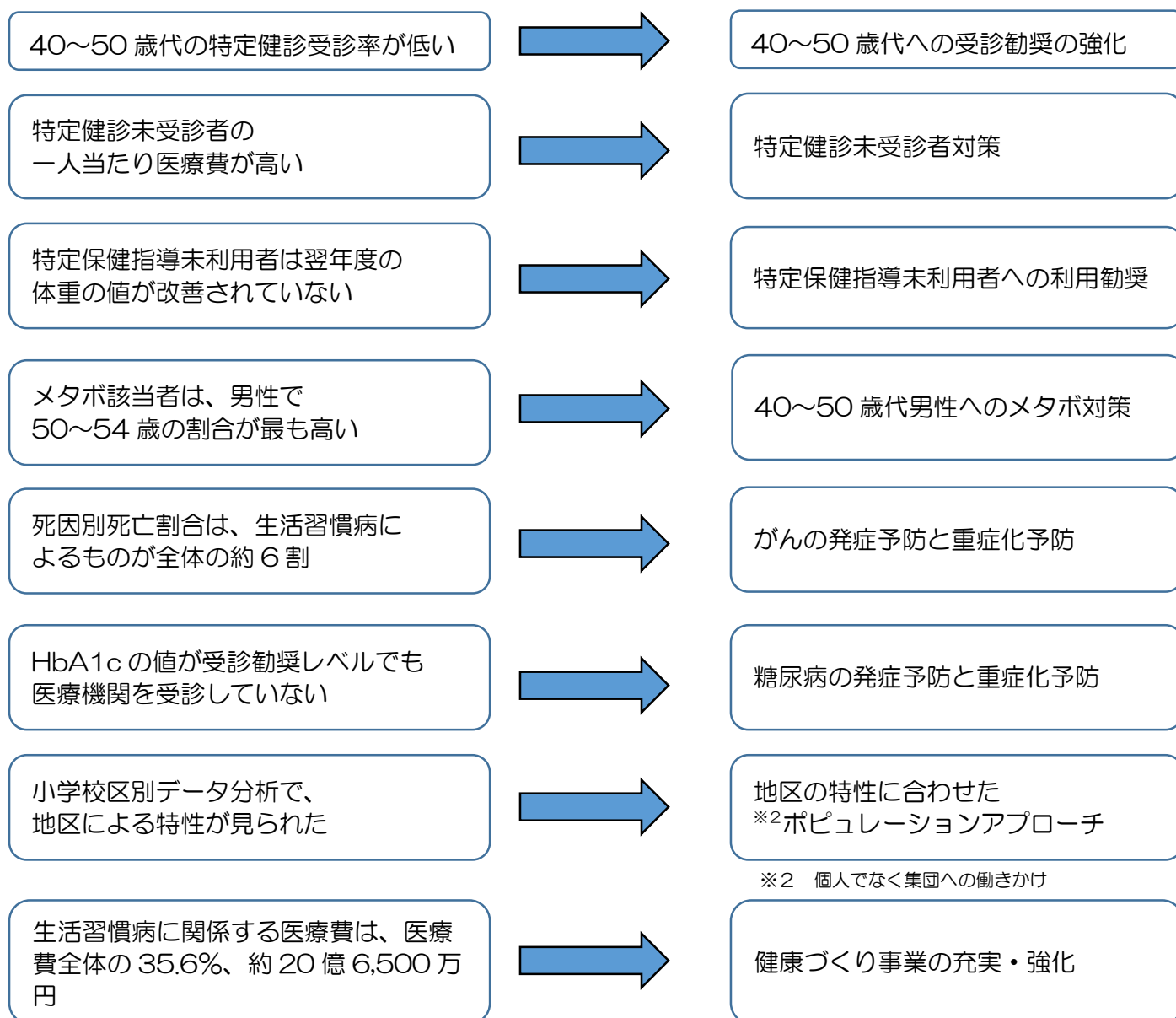


平成 27 年度の特定保健指導の利用有無別に、平成 27 年度と平成 28 年度の特定健診の体重変化をみると、特定保健指導を受けた人が受けていない人に比べて減少割合が高くなっています。

医療費適正化に向けた課題

○ジェネリック医薬品利用率（金額）は、平成 27 年度 38.8%、平成 28 年度 44.7%と増加傾向。
 ○ジェネリック医薬品利用率を平成 35 年度までに 58%まで拡大することを目指します。

健康課題への対策



※2 個人でなく集団への働きかけ

主な事業

- 特定健診未受診者対策事業として、受診しやすい体制づくりを進めるとともに、未受診者へ個別に受診勧奨を実施
- 特定保健指導未利用者対策事業として、未利用者に対する電話勧奨を実施
- 糖尿病重症化予防事業として、教室参加勧奨及び 3 か月、6 か月の保健指導、血液検査等による評価を実施
- 健康づくり事業として、健康と人の絆づくり隊推進事業、健康ウォーキング、野菜たっぷりヘルシーメニュー事業及びがん検診未受診者対策を実施

知多市国民健康保険データヘルス計画 概要版

平成 30 年 2 月 発行：知多市 保険医療課・健康推進課